

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（かがやき特別支援学校草の実分校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	<p>三重県立子ども心身発達医療センターの整形外科及びリハビリテーション科、草の実病棟（以下、「医療センター」という）と連携し、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育・療育の推進に努め、肢体不自由教育のセンターとして県内の肢体不自由教育のコーディネートを担当する学校</p>
(2) 育みたい児童生徒像	<p>○学校に来ることが楽しくたまらない、少し難しいことがあっても友達と助け合っ てチャレンジしている。</p> <p>○卒業後や復籍後の姿を具体的に描き、その実現に向けて学力の向上を含め、交流学 習や校外学習で必要に応じてヘルプの発信をして生活力を高めようとしている。</p> <p>○基本的な生活習慣が確立されており、自分を大切にするとともに、仲間を大切にす る心が育っている。</p>
(2) ありたい教職員像	<p>○医療センターとの連携を密にし、肢体不自由児教育の専門的な知識を有し、共感的 なまなざしをもって、授業改善に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本県の肢体不自由教育を軸とした特別支援教育の推進における自分のポジション を意識し、医療センターや同僚、関係機関との協働を通してキャリアアップに努め ている。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童生徒〉 退院後の前籍校への復籍や社会参加につながる技能・知識の習得を望んでいる。また、「わかる授業」等により、楽しい学校生活を送りたいと願っている。</p> <p>〈保護者〉 子どもたち一人ひとりのニーズにあった教育が行われ、自己実現と社会参加につながる技能・知識を習得し、個々に応じた進路が保障されることを望んでいる。</p> <p>〈前籍校、小中学校等〉 支援情報の共有や具体的な助言等の支援を期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈医療センター〉 情報の共有や、支援の共通理解や役割分担の明確化をより図ってほしい。</p> <p>〈関係諸機関〉 卒業後の生活を見越し、密接な連携と生徒の情報提供をより行ってほしい。生徒の基本的な生活習慣の確立と保護者に協力してもらいたい。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>〈医療センター〉 密接な連携と情報共有を図るとともに教育環境について理解してほしい。</p> <p>〈関係諸機関〉 卒業後の進路及び生活に係る情報提供と支援をより行ってほしい。また、就業体験の理解と機会の増加をしてほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○かがやき特別支援学校では障がい種の異なる学校と一体となるが、草の実分校には医療センターとともに肢体不自由に関する専門性を発揮することが求められており、肢体不自由教育をより充実させる必要がある。</p> <p>○防災対策を進めていくうえでは地域との連携も重要であることから、今後は医療センターだけでなく地域の自主防災組織等との合同避難訓練等にも取り組む必要がある。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○卒業後を見越し、キャリア教育を加味した教育活動や教育課程の見直しを図る必要がある。</p> <p>○医療センターとの役割分担を明確にするとともに、医療センターの専門家を活用した指導方法の改善に取り組む必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○医療センターの整備を迎え、草の実分校の三重県の特別支援教育におけるセンター的役割を明確に示す時がきている。</p> <p>○児童生徒数の減少等に対応できるよう分校内の教職員の協力体制をより整えていく必要がある。</p> <p>○新校舎における災害時等の緊急時の対応について、医療センターとの共通した認識と対応を定めておく必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○校内研修において、医療センターと連携した専門性や外部研修の充実を図るとともに、教員同士の知識の共有や基礎基本の見直しを行い、学校全体の専門性の向上を図る。</p> <p>○地域、保護者と協力して策定した小学部から高等部までの一貫した草の実分校のキャリア教育体系について、実践からのフィードバックにより精度を高める。</p> <p>○同年代の児童生徒との交流学习を推進するとともに、地域の人々などと活動を共にする機会を積極的に設ける。</p>
学校運営等	<p>○医療センターの専門家（PT等）と連携した県内の小中学校における肢体不自由の支援の専門性の向上に資するセンター的機能の構築に取り組む。</p> <p>○教職員が自分の力を十分に発揮し、助け合いながら業務を行えるよう、校務分掌や業務の見直しを行うとともに、過重労働の削減に取り組む。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
自立活動の指導を中心とした授業の改善	<p>(1) 授業研究や校内研修を通して、授業改善の取組を進める。</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療センター専門家と連携した授業の実施と事後検討 ・「(改訂)パワーシート」(授業評価シート)の作成及び活用 ・医療センター専門家による基礎基本講座の開催 ・テーマ別グループ研修 ・「かがやきDay」(自主研修日)の設定 等 <p>【成果指標】「授業改善に繋がった」と回答する教員の割合75%</p>	<p>(1) 以下の各取組を通して「授業改善に繋がった」と回答した教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家と連携した授業 100% ・「相談シート」 100% ・公開授業 88% ・基礎基本講座 89% ・校内研修(教材グループ・からだグループ) 89% ・「かがやきDay」 95% 	※
	<p>(2) ICT 研修会を開催し、授業での ICT 機器の活用向上を図る。</p> <p>【活動指標】 ICT 研修会の計画的実施</p> <p>【成果指標】「授業で ICT 機器を活用してみよう」と回答する教員の割合 75%</p>	<p>(2)「授業で ICT 機器を活用してみよう」と回答した教員 80%</p>	※

改善課題

- ・ 自立活動の指導においては、引き続き的確な実態把握に努めるとともに、今後は専門家の意見も踏まえて、適切な課題設定をし、評価・改善していくことが必要である。
- ・ 児童生徒の実態（障がい、発達等）に応じて効果的に ICT を活用できるよう、さらに研修を深める必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
医療センターと連携した肢体不自由教育の特色あるセンター的役割の確立	(1) 医療センターのPT等との協働を通して学校における外部専門家との連携のあり方を研究し、小中学校等における肢体不自由の児童生徒の支援の充実に資する情報提供を行う新たな仕組みを検討する。 【活動指標】PT等との連携会議の実施回数 【成果指標】連携会議の開催6回以上	(1) 医療センターとの連携会議（月1回）実施11回	◎
	(2) 県内の特別支援学校に所属するPT、ST、OT、自立活動教諭との連携による小中学校等への相談機能の強化を検討する。 【活動指標】連携会議の実施回数 【成果指標】連携会議の開催2回	(2) 特別支援学校のPT等との連携会議参加1回 * 北勢地域特別支援学校主催	◎
緊急時対応に関する医療センターとの協議等	(1) 学校の設置形態や新校舎及び地域の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。 (2) 危機管理マニュアルの職員間の周知及び避難訓練等を実施する。 【活動指標】危機管理マニュアル整備、職員説明会1回、避難訓練1回、計2回以上実施 【成果指標】危機管理マニュアル整備、職員説明会、避難訓練の実施状況	(1) 避難経路・方法等を確認し、マニュアルに反映 (2) 職員説明会：2回 避難訓練：旧校舎実施1回、現校舎実施2回（うち医療センター、あすなる校との合同実施1回）計3回	※ ※
働きやすい職場環境づくり	(1) 企画運営委員会での業務遂行上の課題確認・検討し、校務分掌や業務の精選を進める。 【活動指標】職員会議等の所要時間1時間以内終了 【成果指標】職員会議等の所要時間1時間以内95%	(1) 職員会議の所要時間1時間以内 44%	※
	(2) 心身の健康の保持増進や仕事の効率化を図る。 【活動指標】「リフレッシュデー」を月1回実施 【成果指標】「リフレッシュデー」の実施100%	(2) 「リフレッシュデー」の実施 100%	※

改善課題

- ・ 医療センターや他の特別支援学校と連携した肢体不自由教育に係るセンター的機能の構築のため、小中学校等に対する支援体制や方法等の具体について、協議していく必要がある。
- ・ 防災対策における課題をあすなる校や医療センターと共有し、より現状に即した危機管理マニュアルの整備をさらに進める必要がある。
- ・ 小規模校で教職員数も少ないことを踏まえ、業務を分担し、計画的・効率的に仕事を進めていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・ P T等と連携した授業を実施することによって、児童生徒がどれだけ成長したかという視点で授業改善の取組を評価することが大切である。・ センターの機能として、P T等の助言や知見などを生かした日々の実践事例を小中学校や他の特別支援学校に対して情報発信できるとよい。・ 地域の実情も踏まえて様々な災害や被害を想定した防災訓練を行い、医療センター等とともに防災上の課題を明らかにし、解決を図ることが重要である。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 自立活動の指導は、指導すべき課題の整理や課題を相互に関連付けることで、具体的な指導内容を設定し、学習評価の充実につなげる。・ P T等を活用した実践事例をデータベース化してまとめる。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・ センターの機能の一つとして、P T等の活用の仕方やそのメリットを研修会やホームページ等で情報発信する。・ 医療センター等との合同防災訓練は、地域の災害履歴や防災計画等を踏まえて実施する。